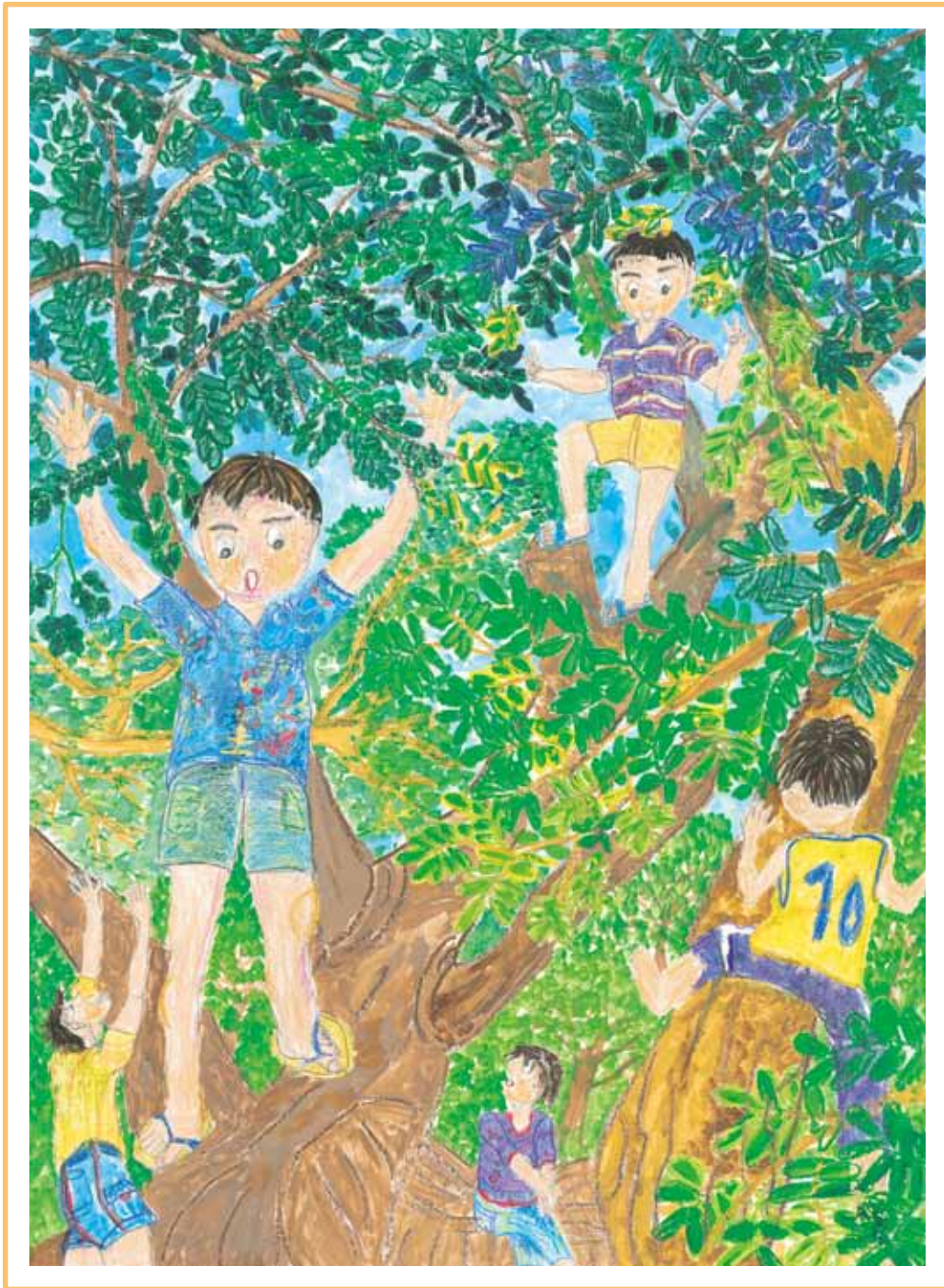




vol. 30

2013.3



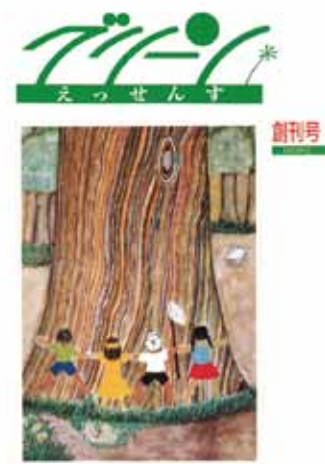
公益社団法人 千葉県緑化推進委員会

「グリーンえっせんす」創刊から 20年 誌面でたどる「あゆみ」

— あなたも「緑の地球」を支えるひとりです。
そんな書き出しで、千葉県緑化推進委員会の広報誌「グリーンえっせんす」第1号が発行されたのは20年前のこと。
その誌面を振り返り、緑化推進運動の歴史をたどります。

創刊号

グリーンえっせんす誕生！



◀表紙の絵は国土緑化運動ポスター原画全国コンクール応募作品より。創刊号は文部大臣賞を獲得した千葉市立土気南中学校2年生の作品でした。毎年多くの応募のある名だたるコンクール。「グリーンえっせんす」では20年間、毎月力作を紹介し続けています。

創刊号 1993年10月



◀ボランティアによる活動が注目を集め始めていたころ。鎌の使い方や、樹木の管理方法など、汗をかきながら学ぶ「県民参加のみどりづくり」などを開催しました。

第8号



第8号 1996年4月

▶千葉県緑化推進委員会が力を入れてきたものの一つに、教育活動があります。森は一朝一夕に作られるものではありません。子どものころから緑に親しみ、その役割や重要性を学ぶことで、長い年月をかけて育成されるもの……こうした考え方から行われている「教育の森」制度をご紹介します。

本誌も、県内のほとんどの学校に配布を行っており、学校活動や授業に役立てられています。



◀特集記事はこの年スタートした2つの事業について。

緑の羽根でおなじみの募金が法制化され、1995年に「緑の募金」として再スタート。地元千葉はもとより、緑を通じた国際貢献も視野に入れた募金となりました。

また前年度の阪神淡路大震災で、ボランティアの活躍が注目され、「皆ができることから取り組もう」という機運も高まりました。こうした時代の流れの中で「みどりのボランティア」が発足。官民が垣根を取り払い、活動を行うようになりました。



第10号 1997年4月

◀ガーデニングブームが到来し、庭づくりや家庭菜園などを楽しむ人が増加。

特集記事でもコンニファーを取り上げ、その魅力や育て方などを紹介。身近なものを題材としたことで、反響がありました。



第13号 1998年10月

庭づくりがブームに！！

第14号



第14号 1999年4月

本格的な作業も行うみどりのボランティア



◀スタートから3年が経過したみどりのボランティア。誌面ではその継続的な活動を報告。また講習や研修を受けて、森林の管理方法をマスターした県民の皆さんが、自主活動を開始した時期です。

NPOやボランティア団体など、様々なグループが立ち上がりました。事務局ではこうしたグループ活動を推進していきました。



▲1998年に一般公募で「みどりのボランティアシンボルマーク」も決定しました。

第16号



第16号 2000年4月

◀戦後の1950（昭和25）年に全国的に始まった緑化運動。当時の合言葉は「荒れた国土に緑の晴れ着を」でした。これを受けて同年に設立された千葉県緑化推進委員会。その活動も50周年を迎え、事業内容を総括した記念特集を組みました。

募金、ボランティア、森林浴や観覧会、学校への樹木ラベルの提供など、その内容は多岐にわたっています。



第18号

イラストで、スローライフを紹介！

▶大量生産大量消費のライフスタイルに対し、ゆったりとした暮らしを提案するスローライフが注目を集めた時期。本誌の特集でも、森の恵みを取り入れる暮らしを紹介。自然を気軽に取り入れる方法、マンションなどでも十分実践できる楽しい実例を紹介し、好評でした。



第18号 2001年4月

第19号



第19号 2001年10月

◀迅速な情報伝達、手軽なコミュニケーション手段として、ホームページを開設。全国の緑化推進委員会の中でも先駆的な存在として、他県からの問い合わせも多く寄せられました。

みどりのボランティアの活動状況や、絵画展の作品閲覧など、見る方が楽しめるような様々なコンテンツも用意しました。





第22号 2005年3月

▶特集では、全国的に注目されるモデル事業を紹介しました。日本の花の代名詞ともいえる桜の花つきが悪くなる病気“サクラてんぐ巣病”対策について。全国的に問題となっている案件だけに、記事は注目を集めました。また、学校林が森林環境学習の格好の場として再注目される中、モデル学校林設定事業も紹介。学校の熱意の下、隣接する山林を整備し、学校林として活用するまでのプロセスを記事に。県内外の学校関係者からも注目される記事となりました。



第23号 2006年3月

◀インターネットの普及やゲーム機器の進化など、大人も子どもも忙しい現代に、心を癒やしてくれる自然。そんな自然に触れ合いながら親子で楽しむことができるネイチャーゲームやネイチャークラフトを特集。森林インストラクターの方に様々な楽しみ方を紹介してもらった写真盛りだくさんの記事は、子どもたちにも好評でした。



第26号 2009年3月

▶国土の緑化を目指して歩んできた60年。地道な啓発活動が様々な方面で思いも寄らない形となってムーブメントを起こし始めていることを実感できる時代となりました。舞台活動を行うパフォーマーや、ミュージシャン、サーフボードなどのデザインを手掛けるサーファーなど、一見緑化活動とは関わりがないと思われる方々からの「自分たちにできることはないか？」というアプローチで実現したチャリティコンサートやライブ、コラボレーション企画などを紹介。

緑化運動が、身近で誰もが参加できるものであり、すべての人に関わりのあるテーマであることが実感できる記事となりました。



音楽やスポーツにも緑化のながり...



第27号2010年3月

国際森林年の年

◀国際森林年の年は、くしくも発刊の直前に東日本大震災に見舞われ、千葉県でも旭市をはじめとした九十九里海岸への津波や、浦安市ほか埋立地の液状化など大きな被害がありました。緑の募金は、これまでの各種事業の実施に加え、震災復興に向けた森林整備・緑化等の支援を行うこととなりました。

第28号 2011年3月



第29号 2012年3月

▶次年度が創刊から20年、次号が第30号を迎える節目の年となることから、誌面デザインを一新。既存のコンテンツを守りながらも、柔らかなグリーンを基調とした優しい誌面にリニューアルしました。

◀東日本大震災から1年。緑化の分野でも復興に向けての事業が様々な形で動きました。

特集記事では特に九十九里海岸と浦安市の復興状況取材。1年を経てもなお、生々しく残る傷跡をはじめ、震災前後の地域の様子の違いや、動き出した新たなチャレンジ、今後の展望などを紹介しています。

苦しみを乗り越えるために立ち上がり、復興に向けた誓いの号となりました。



～これから～

未曾有の被害を出した東日本大震災。その復興なくして緑化活動は語れません。

緑の募金、みどりのボランティア、民間グループによる取り組み、企業や学校の活動……多くの方の協力と「地球を、日本を、自分たちのまちを守りたい」という思いが、復興を支え、明日への一歩を踏み出しているといっても過言ではないでしょう。

これからも、千葉県緑化推進委員会では、様々な事業に取り組み、多くの方の活動をバックアップし、みどり溢れる環境づくりを推進していきます。

みんなで力を合わせて復興植樹！



1 東日本大震災復興植樹



2 県民参加による緑の再生事業（森林ボランティア）



3 緑の少年団

“グリーンえっせんす”のバックナンバーは、すべてホームページでご覧になれます。 [HP http://www.c-green.or.jp](http://www.c-green.or.jp)

緑化推進委員会の
あゆみ

昭和25年	千葉県緑化推進委員会設立
昭和26年	緑の羽根募金運動開始
	県民による県土総緑化運動開始
昭和28年	第4回全国植樹祭開催（富津岬）
昭和45年	緑化運動ポスター原画コンクール開始
昭和54年	みどりの少年団活動開始
昭和59年	社団法人に改組設立
昭和60年	第9回全国育樹祭開催（富津岬）
平成3年	地域緑化推進事業開始
平成5年	「グリーンえっせんす」創刊
平成7年	緑の羽根募金が法制化「緑の募金」に
平成8年	みどりのボランティア推進事業開始
平成10年	千葉県環境緑化センターに事務所を移転
平成11年	千葉県郷土緑化県民大会を「千葉県みどりの祭典」に名称変更、県民参加型に
平成15年	全国植樹祭開催（かずさアカデミアパーク）
平成23年	全国で緑の募金による東日本大震災・復興事業開始
平成24年	公益社団法人に移行
	「グリーンえっせんす」リニューアル

今回の学校は

広大な学校林で育つ、かしこく、やさしく、たくましい子

—君津市立小櫃小学校—

地域ボランティアが支える伝統の森

平成 23 年度から 24 年度にかけ、5 年に一度の（公社）国土緑化推進機構による全国学校林現況調査が行われました。中でも広大な学校林を持つことで知られるのが小櫃小学校。明治時代から続く歴史ある同校は、1.8ha の学校林に囲まれており、スギやサカキ、竹など多様な樹木が茂っているのが特徴です。自然木を利用したアスレチックは、地元の住民で組織されている“小櫃の元気な子どもを育てる会”の方々によるもの。ほかにマラソンコースが整備されるなど、地域の人々の手によって支えられ、子どもたちは元気いっぱいに緑と触れ合いながら遊んでいます。

「森は危険も伴うので、きちんと整備されていないと教育上での利用は難しいものです。小櫃の森は地域ボランティア“小櫃の森整備委員会”の方々を中心に整備を行ってくださっているの、私たちは安心して活用することができるのです」とは、校長の鹿島満子先生。地域ぐるみで子どもたちの教育環境を整えようという、気概が溢れています。

幅広い活用術

広大な小櫃の森は、自然観察や昆虫採集、シタケ栽培やタケノコ堀りなど、貴重な体験学習の場となっています。東日本大震災以来、放射線量の関係から残念ながら収穫体験などはできていませんが、



子どもたちにとってはかけがえのない環境。炭焼き釜も設置され、以前は炭焼き体験も行ったそうです。これらも地元在住の専門家の方の指導によるものとか。「現在は 4 年生児童による手作り巣箱の設置を行っています。これからどんな鳥が集まってくるか、皆で楽しみにしているところ」とは、学校林担当の杉山公一先生。

平成 19 年度からはみどりの少年団を結成し、緑化活動に取り組んでいる小櫃小学校。古墳なども隣接する小櫃の森は、子どもたちの心や体を育むだけではなく、地域と学校を結び絆でもあり、元気な小櫃っ子の象徴でもあるのです。

オススメします。 この本



「世界一の庭師の仕事術
路上花屋から
世界ナンバーワンへ」

著者／石原和幸
WAVE 出版／1,400 円＋消費税

著者は、ランドスケープアーティスト。植物を使ってあらゆる場所をアートにし、皆が楽しめるものにする仕事だという。国際ガーデニングショー、「切尔西・フラワーショー」で 3 年連続ゴールドメダルを受賞した。花と緑の力を知った男がその哲学と夢を語る言葉には、どの仕事にも当てはまる人生のヒントがある。



「ジョン・レノンが愛した森
夏目漱石が癒された森
著名人の森林保養」

著者／上原 巖
全国林業改良普及協会／
2,000 円＋消費税

表題の 2 人のほか、堀辰雄、ペーテンら古今東西の著名人が過ごした森林でのエピソードが収められている。写真を見れば、彼らが吸ったと思われるそこの空気が感じられる。森林の持つエネルギーは、人とその創造力を再生させてくれるという。彼らと共に林間の道をたどった後は、自分の森を探しに出掛けてみよう。

今回ご紹介した 2 冊のいずれかを各 1 名様にプレゼントします。ハガキに、ご希望の書名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、（公社）千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係にご応募ください。また、本誌をご覧になった場所、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は 8 ページ下、締め切りは 7 月末日（当日消印有効）です。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



企業と みどり

～緑を愛する元気な企業～

NEXCO 東日本

プロの視点での植樹と管理

ビジネスや観光など生活の中で利用することの多い高速道路ですが、その路側帯やサービスエリアに工夫を凝らした樹木が茂っていることに気付く人は少ないかもしれません。しかし少し注意して見

てみると、様々な特色があることが分かります。「高速道路の樹木には、環境保全、景観保全、安全向上という三つの機能があります」と、解説してくださるのは NEXCO 東日本関東支社千葉管理事務所の佐藤敏彦さん。盛土のり面などの樹林による CO₂ 削減への取り組みも推進しており、沿道地域全体の環境保全に対しても積極的に事業展開しています。

「しかし高速道路は植物にとっては特殊な環境です。排気ガスや舗装路面の熱などの影響を受けるので、強健な品種を選ぶなどの工夫が必要で、植樹するときから将来を見越したプランニングがされています」とのこと。もちろん安全な走行のための定期点検や管理も欠かせません。そのために専門の樹木医が配置されるなど、プロの視点での管理が行われています。

環境への愛情と もてなしの心

また、ルートによって様々な工夫があることも見逃せません。観光で利用されることの多い館山道にはリゾートを意識したヤシ類が植えられていたり、外国からのお客様を迎え入れる新空港道には日本を象徴する桜が植えられています。2 月下旬のカワヅザクラから

はじまり、ソメイヨシノを経て 5 月のサトザクラまで、9 種類もの桜を楽しむことができるようになっています。

「これらは桜守と呼ばれる第十六代佐野藤右衛門氏の指導によるもので、1978 年の開通から 30 年あまり、毎年美しい花を咲かせてくれています。外国のお客様を和のテイストでもてなそうという意味を込めました」

四季のある国だからこそその植栽。安全面だけを考えれば緑は不要なものになりかねない高速道路。しかしそこにあるのは、環境への愛情と、豊かな心を表したかけがえのない緑でした。

DATA

東日本高速道路株式会社

東日本の高速道路の管理運営、建設事業、SA・PA 事業および、高速道路関連ビジネスを行っている。安全・安心・快適・便利を追求し、路側帯や中央分離帯、SA 等の緑化にも力を入れ、地域社会への貢献を進めている。

1 関戸橋から空港側を望む

2 飛行機と新空港道“関山”開花

3 佐野藤右衛門と新空港道看板



森の 名手・名人



末吉 一威さん（勝浦市・75 歳）
〈森づくり部門〉

小規模森林で収益を上げる、育林知識を駆使した森林経営を行っています。密植造林や枝打ちによる無節柱材生産、天然絞リスギの生産や有用広葉樹とスギ・ヒノキとの混植など集約的施業による高付加価値材の生産を実践。千葉県林業研究会や千葉県天然絞研究会の会長を務め、県内での造林技術の普及に貢献されています。



中央が末吉さん

（公社）国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・につぼん」運動。森林を守り育て、その恵みを生かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人 100 人」を選定。今年度、千葉県では 1 名が名手・名人に選ばれました。



緑の募金は東日本大震災被災地域の 緑化・森林整備等を支援します

春季・緑の募金にご協力ください

平成25年度 緑の募金運動
目標額 3,500万円



3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等でも受け付けています。

緑の募金では従前の各種緑化事業に加え、全国一丸となり、東日本大震災被災地域の緑化・森林整備等を支援しています。24年度には千葉県でも旭市、山武市、白子町の海岸林植樹事業や浦安市の緑の防波堤整備事業を実施しました。県民の皆様のご理解と温かいご支援をお願いいたします。

平成24年度の募金総額は34,822,517円に達しました。お寄せいただいた募金は、学校や公園といった公共施設の緑化や緑の少年団に代表される森林環境学習、また森林ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。また、その一部は世界規模での緑化や森林の整備にも役立てられています。



平成24年度 公共施設等の 環境緑化事業を実施しました

(公社)ゴルフ緑化促進会並びに県内協力ゴルフ場のご協力のもと、プレイヤーによる緑化協力金を原資に、市町村から希望が寄せられた下記6カ所の公共施設などに植樹を行いました。



安房郡鋸南町：鴨川保田線脇ポケットパーク

市町村	場 所	樹種・本数
市川市	市道0234号	オオムラサキツツジ298本、バラ12本、ユリオブスデージー480株
船橋市	都市計画道路3・4・20号 印内習志野台線	ヒラドツツジ353本
匝瑳市	飯塚沼農村公園	ソメイヨシノ15本
一宮町	一宮海岸広場	ココスヤシ5本
白子町	白子中学校及び 近隣施設	ソメイヨシノ30本
鋸南町	主要地方道鴨川保 田線脇ポケットパーク	カワヅザクラ18本

国土緑化運動ポスター原画コンクール 入賞作品展示会のお知らせ

平成24年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品展示会を下記のとおり実施します。12,351点の応募の中から選ばれた素晴らしい作品の数々です。次代を担う子どもたちの緑や自然に対する思いやメッセージをぜひご覧ください。

当コンクールは平成25年度も実施します。たくさんのご応募をお待ちしております。

期 間	場 所	展示作品
4/15(月)～ 4/22(月)	千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁19階県民展示コーナー」 ※土、日曜日は除く	特別賞、特選の 計36点
5/1(水)～ 5/13(月)	習志野市津田沼5-14-2 「千葉信用金庫 津田沼支店」 ※休業日は除く	特別賞、協賛賞 の計15点
5/16(木)～ 5/24(金)	佐倉市上志津1825 「千葉信用金庫 志津支店」 ※休業日は除く	特別賞、協賛賞 の計15点
5/28(火)～ 6/3(月)	千葉市中央区新町1000 「そごう千葉店 地階ギャラリー」 ※最終日は16:00まで	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
6/11(火)～ 6/23(日)	印西市原山1-12-1 「県立北総花の丘公園 花と緑の文化館内」 ※休館日は除く	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
7/1(月)～ 7/16(火)	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園 公園センター内」	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
8/13(火)～ 8/25(日)	千葉市中央区青場町977-1 「県立青葉の森公園 公園センター内」	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
9/3(火)～ 9/29(日)	千葉市稲毛区天台6-5-2 「千葉県青少年女性会館」 ※休館日は除く	特別賞、特選、 協賛賞の 計39点

※会場等都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認ください。

表紙の絵

表紙の作品は平成24年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、小学校高学年の部、委員会議事長賞を受賞した今関 圭さん(小4)の作品です。



vol. 30
2013.3

2013年3月発行

発行／(公社)千葉県緑化推進委員会

URL <http://www.c-green.or.jp/>

〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522

印刷／凸版印刷(株) TEL.043-350-5611

※この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。